

### 事例3 行政と社会福祉協議会、NPO と協力した取組

市町	さくら市教育委員会生涯学習課
事業	ひだまりふあんの会との連携について

#### 1 事業を始めたきっかけ

「ひだまりふあんの会」は、「子育ての『ふあん（不安）』を小さくして、子どもたちの『ファン』をたくさん増やそう」ということで、平成20年に設立した。きっかけの一つは、発達障害のあるお子さんを育てているお母さん達が相談したり、悩みを共有したりできる場や同じ悩みをもっている親同士で気軽に相談できる場が欲しいという声だった。もう一つは、以前から家庭教育に関する意識が高かった「NPO とちぎ障害者労働自立センターゆめ」側から上松山児童センター（社会福祉協議会）コーディネーター支援員さんに声をかけたことだった。その際、学校側との連携も必要ということで、さくら市教育委員会生涯学習課も関わることになった。

#### 2 活動内容

保護者の心の面での支援を目的とする。具体的には、子育てに不安のある保護者を対象としたカウンセラーへの相談をとおして不安を軽減したり、同じ悩みをもつ保護者の情報交換の場や仲間づくりをしたりすることで、孤立しがちな保護者の居場所をつくっている。また、学校教育課やスクールソーシャルワーカー（SSW）等との連携を図り、問題の早期発見・早期対応につなげている。

設立当初から変わらずにNPO とちぎ障害者労働自立センター代表と子育て支援員の二人が、相談員として活動している。無理に参加を促したり、解決しようとしたりせず、あくまでも相談者の側に立って気軽に参加できるように、相談者が参加しやすい雰囲気づくりと参加しやすい相談体制づくりを心掛けている。

#### 3 成果と課題

##### ○成果

- ・ 毎回3、4組の参加がある。ただし、参加者が固定されてきている面もある。
- ・ 参加者からは、他の参加者の話を聞いて、自分一人ではなく同じ悩みを抱えている方がいることを知り、居場所があると感じたり、子どものよさに気づくことができたりした、という声がある。
- ・ 近所の参加者同士で交流をしていた時もあった。
- ・ 要望もあったので、「上松山児童センター」「氏家公民館」だけではなく、「氏家児童センター」での開催も予定している。

### ○課題

- ・リピーターが多いので、新規の参加も促していきたい。
- ・本当に困っている人が参加していない。目を向けさせることが大切だと感じている。
- ・広報活動に工夫をしたい。例えば、ポスターやカードの配付（公共施設はもちろん、小児科や産婦人科にも置いてもらう）、校長会等で説明して、保護者に周知してもらえるように依頼する。



## 4 その他

### ○今後の活動

- ・現在も、学校教育課（指導主事、SSW など）との連携を図っているが、今後は健康増進課や児童課、市民福祉課などとの連携も模索していく。例えば、健康増進課主催の健康診断等で気になるお子さんをピックアップすることもできる。また、さらに具体的な支援が必要となっていくこともあるかもしれないので児童課との連携も重要となると考えている。
- ・現在は、児童センターや公民館などで実施しているが、各小学校（要望があれば）などに訪問することも視野に入れている。
- ・家庭教育支援チームとの連携の強化を図りたい。
- ・予算取りや会場の工夫も大切だと考えている。加えて、曜日や場所を変える試みも行っている。

（調査協力：さくら市教育委員会生涯学習課 副主幹兼社会教育主事 高瀬亮、  
社会教育指導員 上野幸子）